

投錨揚錨等訓練



ウィンドラス

い平成29年6月1日浦郷湾にお
船橋、乗鎖庫員、船首の3カ所に
分達が乗橋作業、指導の生
徒達が船橋作業。特にウインド
作業を船橋作業。特にウインド
ラス操作は危険を伴う作業であ
り、生徒達は緊張感の中で、真
剣に取り組んでいた。安全に対
する細やかな配慮の中で、事故
無く訓練を終える事ができた。

実際に錨泊作業を行ないました。見ている時
と、自分自身が行っている時とは、全く違
いました。今回体験し、失敗したこと、改善した
方が良いことなどをしっかり反省し、今後に活
かしたいと思いました。貴重な訓練が出来たこ
とに感謝します。専攻科 2 年 M・K

★訓練で実施する 錨泊法の種類

① 単錨泊
左右どちらかの船首錨を
投下する方法。投錨が簡便
で一般的に用いられる
② 双錨泊
両舷の船首錨を距離を隔
てて投下し、その中間に
停泊する方法。錨地が狭
く、船体の振れ回りを小
さくする必要がある場合
などに用いられる
③ 二錨泊
双錨泊の一種であるが、
荒天をしのぐために用い
られる。振れ回りを小さ
くして、より大きな把駐
力を与えるために用いられ
る。



クリアーアンカー



船長の命令指揮を船首に伝える等

出入港の際、船橋では船長（総指揮）、機関長（機関操作）、3/O（指揮の伝達、記録）操舵手（操舵）の職務を行っている。

この訓練では、生徒達は順番で3/Oと操舵手の役割を交代し、的確に行った。船長の指揮を、実際に、マイクを通して伝える生徒達は感じていたようです。



トピックス



錨鎖庫作業

神海丸には片舷8節の錨鎖が錨鎖庫に格納されていて、1節が25mの長さになり、200mの投錨する際、スムーズに出るよう、揚錨時に錨鎖が絡まないように、デッキブラシを使ってさばいています。



錨鎖庫での訓練内容



船首では、船長からの指揮命令を的確に素早く行ないます。また、繰り出された錨鎖の節数、方向、張り具合などの状況を正確に船橋に伝えなければなりません。

船首での訓練内容



② 船長の指示を明確に簡潔に言え、混乱させない。

③ 船長の意図を適切に周知すること。

④ 船長の声が小さかった。緊張しすぎてパニック状態になってしまった。マイクを通して方が悪くて、伝達内容が一部伝わっていない。

E・S



船橋では、船長の指示で船首に伝え、鎖の状態で作業を行う。状態を伝えるために、スミスに進め役割を担います。

★船橋での反省点

①船橋のマイクな達たは滑舌が悪くな

2) 船長の指示を用



